

みみよい

なお知らせ!

第 44 号

平成 29 年 11 月 15 日発行

佐賀県聴覚障害者
サポートセンターだより

みみの記念日 3月3日耳の日 6月6日補聴器の日 9月9日人工内耳

2017 佐賀インターナショナルバルーンフェスタ SAGA INTERNATIONAL BALLOON FIESTA 2017

平成 29 年 11 月 1 日～11 月 5 日 18 ヶ国・地域から 112 機が参加



↑ 11/2 一斉離陸の様子を対岸から撮影(清田)



今年初「バルーンさが駅」
降りてすぐの案内に手話
通訳ブース(写真右)



バルーンフェスタ会場案内で情報保障・手話で案内

5日間放送塔前の手話通訳 20 人、受付 45 人(うち、ろう者 15 人)で対応。
佐賀県手話の会連絡協議会により 20 年間続いています。



<初の写真コンテスト>

バルーンフェスタ期間中に
佐賀県内で撮影された写
真を募集。聴覚障害者と
情報支援者によるコンテ
スト開催。詳細はホームペ
ージで確認ください。

シリーズ補聴器 「聴こえ」は私たちの願いです。

事例 D 50 歳代男性 10 年前に左耳が突発性難聴で悪くなり、2 年ほど前から右耳まで聴こえ辛いとのことでご相談頂きました。仕事上、お客様との会話が長く聴き返すと失礼になるようでと不安を持ちながら業務に携わっておられました。

当初は、目立たない小型の耳穴式を考えておられましたが、今は耳かけ形も小型で色も豊富に揃っており、耳かけ形補聴器に興味をもたれました。

仕事上、人との関わりで焦っている部分もみられましたが、約 1 ヶ月、右耳装用にて職場を中心に試聴して頂きました。聴こえ以外でも、自分の声が響くことで効果を実感して頂きました。補聴器装用から半年が経ち、聴こうと構えることが少なくなり、楽になったと喜んでおられます。

補聴器装用をする上では、カウンセリングが最も重要ではないかと思えます。また耳栓ひとつにしても、同じ調整でも聞こえの大きさが変わります。現在補聴器を使用されている・いないに関係なく、些細な事でも困られている方は、気軽にご相談下さい。様々なやり方がありますので、時間は掛かるかもしれませんが解決できる可能性はあると思えます。同時に耳鼻科 Dr. への診察案内もさせて頂いております。

微力ではありますが、皆様へ補聴器の情報をお伝えしていきたいと考えております。

池田補聴器(株)佐賀店 原田 恒一



手話通訳者養成 I・II 開講 10/15

【川副町 巡回聴こえの相談 10/25】

5 人の予約に加え 2 人の飛び込み、ご家族からの相談がありました。「加齢による難聴が心配。」「退職したので夫婦での会話を良くしたい」「テレビの音量が大きいと家族に言われる」など家庭内の聴こえにくさを訴えられました。相談後は、「わかりやすい説明だった」「センターまで測定に行きたい」と難聴と向き合い補聴器の試聴を希望されました。次回 11 月 22 日(水)東与賀保健センター(要予約)

聴覚障害者と防災

～東日本大震災の支援から考える～



10/13 講演会報告 (上)

< 講師 >

宮城県聴覚障害者
情報センター

庄子施設事業課長
(手話通訳士・社会福祉士)

東 北大震災から 6 年、当時支援の先頭に立たれた庄子陽子さんの体験的支援に、市町・社協の担当者、情報保障者が多くのごことを学びました。なお講演は本人の都合により手話で行われました。『宮城県の聴覚障害者は約 6 千人、6 年前の 3 月 11 日大震災の起こったその時、沿岸部では「津波だ、逃げろ」の防災無線が聞こえなかった。全県停電、テレビは見られない。携帯電話は圏外。内陸部では、津波が来たことを翌日まで知りませんでした。新潟で印刷されたたった 4 面の新聞が朝 5 時に届いて初めて惨状を知りました。

今 なお、仮設住宅で 5,700 人、民間借り上げ住宅で 4,800 人が生活されている。県外避難は 1,368 人うち九州 123 人。宮城県のこれまでの大きな地震は 1978 年宮城県地震—ブロック倒壊、圧死多数、2008 年内陸地震—活断層地震、3.11 の 3 日前に地震があり「やっときたか、もしかして…やっぱりきたか」と思いました。』【つづく】

難聴と認知症におけるコミュニケーションの重要性

講師:中石 真一路氏 ユニバーサルサウンドデザイン(株)代表

難聴と認知症における音声コミュニケーションの

重要性をテーマに聴こえのセミナーを行いました。参加者 58 名。講師はコミュニケーションを開発された中石ユニバーサルサウンド代表。世界中

の人と人、人とモノとの音声コミュニケーションをもっと快適なものにしたい夢に向かって広く活躍されています。これから 65 歳以上の 20%、約 700 万人が認知症と見込まれていますが、対話形式の認知症検査を行う医者が「聞こえないこと」により認知症と診断されている事例がみられます。また、耳鼻咽喉科の医師で耳専門は 1 割程度と少ない。TV に字幕スーパーが多くつくようになります。いずれにしても音で脳ネットワークを刺激してやることにより認知症の予防になることや突発性難聴の事例を報告されました。会場からは身近な体験等やコミュニケーションの価格について熱心な質問がありました。(10/20)



編集後記：秋の日はつるべ落とし 清

佐賀県聴覚障害者サポートセンター

〒840-0826 佐賀市白山二丁目 1-12 (佐賀商エビル4階)
TEL: 0952-40-7700 FAX: 0952-40-7705
メールアドレス: info@saga-mimisapo.jp
ホームページアドレス: http://saga-mimisapo.jp/

< 開館時間 >

9:30 ~ 18:00

9:30 ~ 20:00(水曜)

< 閉館日 >

毎週月曜日、祝日